

第2表 町内の河川

番号	名称
1	川 坂 松
2	川 坂 大
3	川 神 山
4	川 今
5	川 原 田
6	川 良 多喜
7	川 屋 高
8	川 内 西河
9	川 内 中河
10	川 谷 天ヶ
11	川 丸 犬
12	川 川 祓
13	川 場 馬
14	川 毛 龍
15	川 持 藏
16	川 園 宮
17	川 内 岩屋
18	川 内 釜之
19	川 内 向河
20	川 川 原
21	川 内 田
22	川 内 古河
23	川 内 寺
24	川 川 藤
25	川 川 扇
26	川 川 神
27	川 川 平
28	川 川 立
29	川 川 越
30	川 川 畑
31	川 川 高
32	川 川 砂

国土地理院発行の福岡県の五万分の一の地形図を参照して考察する。本町は県の東北部、京都郡の南部で、北部は飯岳山から馬ヶ岳への稜線で行橋市、勝山町と接し、東は築上郡築城町、豊津町と隣接している。西は飯岳山から焼尾峠を結ぶ稜線が田川郡境をなし、さらに南部は英彦山から犬ヶ岳を結ぶ山系を分水嶺として大分県と境している。地形は細長くクサビ型をした東西七キロ、南北二・五キロで総面積九七・九七平方キロである。標高は南高北低で急峻な山々に囲まれている。

一 地 形

第一節 地形と地質

第三章 地勢と気候

源を英彦山に発する今川、祓川の二河川沿いの両側に平坦地が開けていて本町の中心部や各集落等並びに農耕地が集まっている。他は山あいの溪谷沿いに点在し、平坦地帯、山麓地帯、山間地帯に大別され複雑な地形である。飯岳山（五七三メートル）から東北東方向へは飯岳地塊列の鉄高坊（四六三メートル）、御所ヶ岳（二四六・九メートル）、馬ヶ岳（二二六メートル）が立ち並び、この南部は小河川を集合しながら北東へ貫流する今川の中流域に広がる小規模な犀川盆地であり、この低地帯は浸食作用により形成されたものと思われる。また、祓川沿いの両側に開けた支川三一を集合した城井地区には、平坦地はかなりあるが伊良原地区になると平坦地が少なくな山麓斜面や溪谷に狭い農耕地やその集落が開かれている。なお、この地域には河岸段丘面が点在しているところがある。

二 地 質

本町の地質構成は、福岡県地質図によれば北部一帯にかけては嘉穂型黒雲母花崗岩が馬ヶ岳の南より蔵持山に至る地方に分布し、馬ヶ岳の北側及び蔵持山から下伊良原に至る地方では角閃岩があり、町の中央部は、朝倉型花崗岩類が深層部を形成している。南部は新生代第三紀溶岩

(輝石安山岩)の集塊岩が上伊良原より英彦山に至る地方に分布している。なお町の平坦部の今川と祓川の沿岸は沖積層となっており、洪積層は今川と祓川の間または祓川の東部地区にある。一部飯岳山附近に変成岩が見られる。土壌は町の北部一帯は砂土または砂壤土、中央部から南部にかけては壤土である。一般的に低地部は河川運積物の砂礫砂質土及び粘性土などの未固結物が堆積し、現低地部を構成する。

なお局地(限定地)であるが、内外エンジニアリング社による地質調査地の結果を参考のため例示する。地点は犀川駅より北東へ五〇〇〜七〇〇メートル離れた低地部でその模式断面図の結果図から判断して上位より最上部：粘性土―砂質土―砂礫―基盤の各層からなりほぼ成層状に分布していることがわかる。次に各層別の特色について

- (イ) 最上部層(暗灰) 本層は現地盤下に〇・三メートル厚層で分布する耕作土でその性状は草根混じりの腐植土からなる。
- (ロ) 粘性土層(暗灰) 本層はシルト及び砂質粘土の各土質からなり層厚は〇・六〜一・二メートル程度堆積する。本層の性状は軟弱で含水多し、砂分を少量含有する。
- (ハ) 砂質土層(黄灰、暗灰) 本層は礫混じり砂、シルト混じり砂および砂の各土層よりなり〇・四〜一・七メートルの厚層を有する。本層の起因は主に当地区一帯に分布する花崗岩類を起源とする河川の氾濫堆積物でその性状は含水量の多い土質からなる。
- (ニ) 砂礫層(黄灰、暗黄灰―暗灰) 本層は急速性の氾濫原堆積物で、礫質はほとんど花崗岩基質を供給源とし、礫の形状は直径10〜50<sup>ミル</sup>程度でその割合は三〇〜四〇<sup>パーセント</sup>を占める。砂分は粗粒砂状で、全体に粘土を挟み、含水は多くボーリング操作中孔壁の崩壊が見られる。

第3表 地質層序表

地質時代	地層名	土質名	土質記号	N 値	観察記事
新 生 代	現世	最上部層	耕作土		草根混じりの腐植土
	第四紀	粘性土層	シルト	N=1	含水多く軟弱な性状の土質
		砂質土層	礫混じり砂	N=10	細粒〜中粒砂状に直径10〜30 <sup>ミル</sup> の礫を少量混じえる。
		砂礫層	砂礫	N=8〜24	急速性の氾濫原堆積物からなり、礫は10〜50 <sup>ミル</sup> でその占める割合は、30〜40 <sup>パーセント</sup> であり、また砂分は粗粒砂で、全体に粘土を挟む。含水多く孔壁の崩壊が見られる。
中世代	白亜紀	基盤層	マサ土	N=13〜50以上	花崗岩の強風化帯を形成し、風化変質にて、岩質は脆く、粗粒状を示す。

る。

(ホ) 基盤層(暗黄褐、暗茶褐) 本層は当地区一帯に広く発達する嘉穂

型黒雲母花崗岩で、当地では強風化帯を形成し、マサ土となる。

分布は深度四・九〜六・八層以深に存在する。当地の基盤岩は、全体に風化して粗粒状を示し岩質的には脆く指で潰すと石英以外は容易に碎ける程度である。深度が漸増することに地耐力的、支持力的に十分安定した地盤となる。

※本町南部帆柱地区野峠附近に材木石類の柱状が見られる。また下伊良原地区の石炭層等は特質の一例である。

## 第二節 河川と池沼

### 一 河 川

町の北部を流れる今川と、南西部より北東へ流れる祓川の二つの水系があり、いずれも豊津町、行橋平野を経て周防灘に注いでいる。この川を本川として、四六本の支川が流れており、流路が短く、それだけ勾配が急で、流れが速いのが特徴で、大雨が降るとすぐに洪水となって水かさが増し、水害を起こす暴れ川になりやすい自然性を備えている。

昭和二十年代には年々大災害に見舞われていたが、徹底した防災事業により改修工事が進捗した。その後昭和五十五年に大災害を受け祓川水系上流に被害が集中する。現在、今川上流に多目的油木ダムが昭和四十六年に建設されている(有効貯水量一七四五万ト)。河川の表流水は、ほ

第4表 今川水系の支川

No.	河 川 名			延 長 [km]	流域面積 [km <sup>2</sup> ]	備 考
1	松	坂	川	0.4	0.40	松坂
2	浦	谷	川	0.7	1.32	大坂
3	砂	場	川	1.7	3.08	〃
4	谷	山	川	1.0	0.71	〃
5	中	平	川	0.3	0.65	〃
6	山	神	川	0.4	0.12	〃
7	田	原	川	1.0	0.85	山崎
8	峠		川	1.6	1.76	喜多良
9	喜	多 良	川	4.0	7.17	〃
10	目	迫	川	2.9	1.59	久富
11	末	江	川	3.0	2.21	末江
12	西	河 内	川	1.5	1.64	上高屋
13	高	河 屋	川	1.4	1.01	〃
	(中	河 内	川	(1.4)	(1.01)	
14	天	ケ 谷	川	2.4	1.62	蔵持

とんど灌漑用水に利用され、生活用水は、井戸水やボリングによる地下水の利用が多い。環境汚染の問題や生活様式の変化に伴い、今後水利用の、体系的な整備と河川環境の将来を考え、よりよい河川を生み出す計画づくりと、河川愛護の活動を徹底したいものである。次に今川上流の油木ダムと祓川上流の伊良原ダムの概要について述べる。

### (一) 油木ダム

今川総合開発事業の根幹である油木ダムは、二級河川今川水系今川に洪水調節、灌漑、水道、工業用水の供給を目的とし調査以来約九か年の